選択を妨げる課題

家族計画プログラムは、世界を大きく変えてきました。避妊実行は世界の全ての地域で増大し、避妊の希望が叶えられない人々も減少しています。それでも、全世界でおよそ2億5,700万人の女性が、妊娠を避けたいと望みながら、安全で近代的な避妊方法を利用できていません。その中には、避妊方法を全く使用していない女性が1億7,200万人もいます。なぜでしょうか。

本白書では、近代的避妊を実行しない、または止める理由として最も多く挙げられるのが、予想に反して、もはやアクセスと知識の欠如ではなくなっていることを示しています。むしろ調査結果によると、副作用の体験やそれに対する恐怖、性行為の少なさ、避妊への反対、分娩後・授乳性無月経のほうが、より一般的な理由となっています。これに加えて、神話やデマはどこにでもあり、それはあらゆる情報源、場合によっては教師や医療従事者が広めているという現状もあります。

こうした状況はいずれも、女性が自分のからだと権利について十分に正しい情報を得ることができず、十分な避妊の選択肢も持たず、また副作用を経験したり不安に感じても、支援を受けられていないことを示しています。

このような置き去りにされた人々にまで支援を届けるためには、スティグマやデマ、医療従事者研修、包括的性教育やジェンダーの不平等に取り組む必要があります。またすべての女性は、さまざまな避妊方法にアクセスし、十分な情報と支援を得たうえで自ら避妊の決断をし、その後も継続的ケアが受けられる権利とともに、副作用や生活環境の変化がある場合には新たな選択肢を得る権利があります。

1億7,200万人の女性は避妊方法を全く使用していません。なぜでしょうか。

主体性が鍵

意図しない妊娠を許容できる、避けられない、ましてや望ましいなどと考えることは、世界中で止めるべきです。非難や辱めを当然とする言説を続けてはいけません。「世界人口白書2022」は、このような考え方から脱却することが、人権と開発の双方にとって利益となる根拠を示しています。そして、政策立案者、コミュニティ、指導者、その他の人々に対し、議論を見直し、より良い未来への鍵を握るからだの自己決定権を優先課題とするよう求めています。

今後進むべき道は明らかです。私たちは保健医療制度と教育制度を強化しなければなりません。これらの制度には人権上、生殖と避妊について正確な情報を提供する義務があるからです。若者は当然ながら、教育を受け、自らの目標と選択を明確にするための能力を得るとともに、パートナーの目標と選択も尊重する義務を学ぶ必要があります。

私たちは、利用者が使いやすいような様々な避妊具・薬を、手頃な価格で手に入れることができるようにしなければなりません。そして、意図しない妊娠の原因とそれがもたらす影響についてよりよく把握するための研究への投資や、副作用を抑え、女性の不安を和らげ、男性向けの選択肢を広げる避妊技術の開発への投資が必要です。

性的暴力や性的強制の加害者の責任を追及せず、望まない性行為とその結果として起こりうる妊娠の影響という二重のスティグマを被害者に負わせたまま放置することがあまりにも多すぎるため、私たちは司法制度の改革にも取り組まなければなりません。

そして私たちは、この危機を見過ごさせている規範を変えなければなりません。妊娠全体のほぼ半数が意図しないものである社会において、生殖能力以外の女性の潜在能力に対する価値が十分に認められていると言えるでしょうか。女性は母親になるのが当然と考えられている場合、母親であることの本当の価値を認められているのでしょうか。今こそ、女性と少女の価値を高める時です。そして、女性をエンパワーすることにより、生殖を意図的な選択の対象とすべき時です。母性のみならず、それを超えた女性の真の価値を認識すべき時が来ているのです。

◀「世界人口白書2022」の
日本語抜粋版・英語完全版
その他の関連情報はこちらから

UNFPA 世界人口白書 2022

© UNFPA/Fidel Évora

見過ごされてきた危機

意図しない妊娠

概 要

半数

それはすべての妊娠のうち、女性や少女が自らの意思で（その妊娠をするという）選択をできなかった割合です。

こうした女性にとっては、人生を最も大きく変える生殖に関して、妊娠するかしないかという選択肢さえも無いのです。

「世界人口白書2022」は難しい問題提起をしています。上記の事実は、私達の価値観、優先順位、未来について、何を意味しているのでしょうか。

明らかにされた危機

年間推定1億2,100万件の妊娠は、妊娠することも母親になることも選んだわけではない女性の体内で起きています。彼女たちは、そのタイミングでは、そのパートナーとは、その時おかれている状況下では、子どもを持つことを望んでいなかった女性たちです。

これは見過ごされてきた危機です。この危機が認識されて来なかったのは、一つには、ほとんどの人が、意図しない妊娠を経験した人を知っているというほど当たり前の出来事だからです。また意図しない妊娠は、一般的にスティグマが付きまとうからです。

それでも、意図しない妊娠は個人の生活、社会、そして世界に耐え難い損害をもたらしています。

本白書は、最新の研究成果をまとめ、意図しない妊娠は個人的な問題、保健医療上の問題、人権上の問題、開発上の問題、そして人道上の問題であることを明らかにします。

膨大なコスト

意図しない妊娠のうち60%以上は中絶に至ります。入手可能な最も正確な推計によると、すべての中絶のうち、45%が安全ではありません。安全ではない中絶は、世界の妊産婦死亡の最大要因の一つであり、またこれにより年間数百万人の女性が入院しています。

妊娠するかどうかを選択する機会を奪われた女性と少女は、その他の機会も狭められてしまいます。すなわち、出産が意図したものでない場合、しばしば彼女たちの身体的健康と精神的健康が損なわれる結果となります。妊娠した少女は結婚を強いられたり退学を余儀なくされます。妊娠によって仕事を辞めてしまう女性も多くいます。虐待関係に置かれている女性にとって、意図しない妊娠のリスクは2倍に高まり、また妊娠によって虐待者との関係を断つことが難しくなります。

毎年起きる数百万件の意図しない妊娠の中には、喜んで受け入れられるものも多くあります。またそのような妊娠が恐怖や心配を引き起こしたとしても、生まれてきた子どもは最終的に深く愛され、大きな喜びをもたらすこともあります。意図しない妊娠で生まれた子どもはいずれも、生来の価値、尊厳、そして人権をもつ一人の人間であることに変わりはありません。しかし一方では、意図しない妊娠が数世代にわたって影響を及ぼす負のスパイラルを生みかねないという事実は依然として変わりません。

教育や所得の損失も生じます。一気に貧困へと陥る可能性もあります。こうした損失を累計すると膨大な額に上り、保健医療制度にとっての負担は数十億ドルに上ります。

本白書における独自の研究では、新たに発表された各国レベルの意図しない妊娠の推計値を基に、社会経済発展、ジェンダーの不平等、妊産婦死亡、および中絶ができるかどうかに関する指標と比較しています。それによって、開発レベルが低い国、ジェンダー平等レベルが低い国、妊産婦死亡率が高い国、そして中絶を法律で厳しく規制する国において、意図しない妊娠の割合が高くなっていることが分かります。

ステレオタイプにとらわれない

予定外の妊娠をした未婚の女性または少女は、「ふしだら」と思われたり、「無責任」と非難されることがよくあります。多くの場合、こうした不名誉は本人だけでなく、その家族にも及びます。では、意図しない妊娠をした有配偶の女性の場合はどうでしょうか。そもそも妊娠を望んでいたはずだとか、妊娠するべきであるとか、少なくとも何とか対処できるはずだと決めつけられることが、あまりにも頻繁にあります。それは、女性の要望や選択を無視するものです。

ステレオタイプにとらわれずに、データを基に考察をすることが重要です。持続可能な開発目標（指標5.6.1）に関する最新の研究成果を見ると、データが入手可能な国では、女性のほぼ4分の1が性行為に対しノーと言えず、また4分の1近くが自分自身の健康管理について決定を下せない状況にあります。10%近くの女性は避妊について自分で決定を下すことができません。これは女性と少女をはじめ、基本的な権利の行使を制限されている人々がいかに多いかを改めて示すデータです。また、ジェンダーの差別が私たちの生活のあらゆる面に浸透していることも思い知らされます。

10%近くの女性が避妊について自分で決定することができない

実際、研究によると、基本的にはすべての出産可能な女性または少女は意図しない妊娠を経験する何らかのリスクを抱えています。それはまた、女性または少女であることを自認しない人々の場合でも同じです。どの避妊手段でも一定の失敗率があります。また避妊具・薬を利用することはできても、自分のからだと状況に適したものを入手できない女性も多くいます。社会的な圧力や性的暴力、強制は、驚くほど世界の至る所で見られています。LGBTIの人々も同様に、または場合によってはそれ以上に意図しない妊娠のリスクを抱えています。スティグマがさらに積み重なり、生殖に関するヘルスケアに対する障壁も高くなることで、こうした要因が増幅されるからです。